

# 第2回 ワーキンググループ（第4回 未来の環境の集い）の開催結果概要について

## ○趣旨説明



桐生市環境先進都市将来構想推進協議会  
天谷会長より

令和2年11月29日に『ゆっくりズムのまち桐生』の宣言をした。ゆっくりズムのまちを実現するために、ワーキンググループを設置し、10月に1回目の協議を行った。未来の環境の集いにおいては、2回目のワーキンググループとして位置づけ来場者の方々からご意見をいただく場としたい。

## ○基調講演



広島経済大学 川村名誉教授より

住む人の1人1人が理想と考えるまちをつくるためには、みんなが意見を出し合い構築していく事が重要である。

生まれ変わっても同じ地に戻りたいと思うまちこそがサステナブルなコミュニティのあるまちである。

## ○桐生市環境先進都市将来構想推進協議会での検討結果の紹介



**ワーキンググループの検討結果発表**



**西園委員のスマートムーブ（折り畳み式自転車）を披露**

桐生市環境先進都市将来構想推進協議会の下部組織にワーキンググループが令和3年6月に設置されました。ワーキンググループは、桐生独自の交通やまちづくりを提案する交通・まちづくりワーキンググループと、ゆとりある生活スタイルを提案する生活・地域資源ワーキンググループの2つのグループ構成となります。協議会委員がワーキンググループの一員として議論を進めている。令和3年10月に開催した第1回目のワーキンググループでの主な意見を発表しました。

## ○パネルディスカッション ～パネラーの皆様からの主なご意見～



歩くことで色々な発見ができる。例えば、市役所近くの新川公園に古墳があることはあまり知られていない。歩くことがゆっくりズムに繋がるのではと感じる。まち中を眺めるだけでも良い発見に繋がる。

織都桐生案内人の会 芳山 様

渡良瀬川は、毎年北は北海道、南は九州と全国から釣り人が訪れる。まち中に自然豊かな川があり、大きなヤマメが釣れるところは全国でもなかなかない。また訪れたいまちであると釣り人の多くは感じている。川は春夏秋冬で色々な顔がある。今は健康志向で川の土手をウォーキングする方が多いが、早く歩くのも良いが、ゆっくり川の様子を眺めてみたりしていただきたい。

渡良瀬川水系魚ふれあい振興会 中島 様

新里地区地域おこし協力隊 小野 様

近年は健康志向の方が増えている。地場産の農産物PRを新里地区・黒保根地区とも連携し、市内や、県内県外へと発信していきたい。

2015年からの生活交通をつくる会 関口 様

公共交通に興味がある子どもはバスや電車の乗車方法を知っているが、知らない子どもが多いと感じる。子どもへバスの乗り方などを教えると公共交通の大切さや普及に繋がると思う。



## ○来場者からの主な主なご意見

○ゆっくりズムという題目なので、交通関係に絞られると思っていたが、幅広い中での話だとわかった。桐生市は高齢化が県内でも1番高く、他市よりも20年先を進んでいると考える。20年先の未来に住んでいるといっても良い。周りの市が今後どのようなようになるか桐生市がお手本を見せていきたい。桐生市は様々な要素が揃っている中で、社会実験を通し、1つでも芽が出るものを見出し、住み続けられるまちにしていければと思う。

○令和2年度中に市内で生まれた0歳児は約400人しかいないが、今後の成長と生活を想像して知恵を出し合う事が必要と感じる。

○人と人のつながりが強いのが桐生の良いところである。出会った人の協力により、桐生の自然の恵みを受け、子供たちへ貴重な体験をさせることができる。これもまた桐生でしかできない事と感じる。

○本町通りをゾーン20にすると、まちが変わるかもしれない。

○重伝建エリアを車両通行止めにして、周りにファーマーズマーケットを出店すると良い。

○車と自転車がお互いに思いやりがもてるまちづくりができればと思う。

○桐生市の魅力の発信を上手にできれば良いと思う。

○色々な意見が出るのは大変良いと思う。桐生を良くしていきたい気持ちはみんな同じだと思う。